

医師・看護師・介護職員的大幅増員を 日本医労連増員闘争ニュース

第 136 号
2011年5月24日
日本医労連増員闘争本部
TEL:03-3875-5871
FAX:03-3875-6270

2011年5月17日(火曜日)

しんぶん 赤 旗

命大切にしたいから 看護師大幅増員して

県医労連などナースウエーブ

広島

広島県医療労働組合連合会(八幡直美執行委員長)は14日、広島市中区で看護師や介護職員の大幅増員などを求める「2011春のナースウエーブ行動」をしました。約90人が参加し、学習会に続いてデモ行進、街頭署名をしました。

学習会では、労働科学研究所・慢性疲労研究センター長の佐々木可氏が「夜勤労働の有害性と、その制限と題して講演。「白衣のパレード」のデモ行進では「いのち。大切にしたいから」と書いた横断幕を先頭に「夜勤の改善を」とシチュレヒコールをあげました。街頭署名には約40



分間で8~12人が寄せられ、東日本大震災の募金活動も実施。民主労連や日本共産党の辻つねお県議がかつけ、大型宣伝カーで訴えました。

看護師の大幅増員や夜勤改善で安心・安全の看護を求めて14日、沖繩県那覇市でナースウエーブ集会が開かれました。県医労連宮城常和委員長と県民医連(新垣安明会長の共理)の田中千恵子委員長が初めて来賓あいさつしました。

講演した日本医労連改進黨(署名呼びかけ)の田中千恵子委員長は、「きつい、汚い、危険に加え「休暇が取れない」なども加えた「9K」が流行病大賞(1999年)に選ばれるほど、劣悪さで有名になった看護労働の現状を紹介しました。

集会後、参加者らは「増員・夜勤改善」署名を呼びかけました。看護師歴4年の松本幸作さん(26)は「残業も多く生活は大変」、同6年の諸見里文乃さん(29)も「このまま仕事を続けられるか本当に不安です」と語りました。



大分県医療・福祉労働組合連合会(県医労連)は14日、大分市内でナースウエーブ行動を行い、看護師などの大幅増員、夜勤改善などを求める署名・宣伝活動に取り組みました。約30人が参加しました。

県医労連の池田康夫委員長は「東日本大震災では病院や介護施設が大きな被害を受けました。医師、看護師などの人手不足が深刻です。被災地支援・復興のためにも全国で医療従事者の増員が必要ですよ」と訴えました。

参加者らは「16時間を超える夜勤で離職者が後を絶ちません」「一人手不足と過密労働で患者さんの命は守れません」などと訴え、署名への協力を呼びかけました。



大分県医労連のみなさん
26名参加で356筆！

大分県のナースウエーブは5月14日に行われ、日本医労連から山田真巳子副委員長がかけつけました。ナースウエーブ後には大分労連女性部結成大会もあり、みなさんフル稼働で頑張りました。

